



甲状腺 (こうじょうせん) の病気

甲状腺とは^{1,2)}

甲状腺はのどぼとけのすぐ下にあり、直径約5cmの小さな臓器です。正面から見ると、蝶ネクタイのような形をしています(下図)。甲状腺は、気管(呼吸の通り道)と繋がってはいませんが、気管を巻き込むように存在します。

甲状腺は薄いので、通常、外見からは分かりませんが、病気で腫れた場合は、外から見ただけで「首が腫れている」と分かるようになります。



甲状腺の働きは、**甲状腺ホルモン**というホルモンを作り、血液中に分泌することです。**甲状腺ホルモンは、全身の細胞の働きを活発にし、代謝(新陳代謝)を促進して、体が活動するためのエネルギーを作り出します。**

甲状腺ホルモンは、食事に含まれるヨウ素(昆布など海藻類に多い)が材料になっています。

甲状腺の病気

甲状腺の病気には、大きく分けて次の3つがあります。

- ①甲状腺ホルモンが多い(過剰に分泌される)病気
- ②甲状腺ホルモンが不足する病気
- ③甲状腺に腫瘍(おでき)ができる病気

③の腫瘍には、良性のものと悪性のものがあります。ここでは、甲状腺ホルモンの量の異常である①と②について説明します。

甲状腺ホルモンは一定量に維持されている

甲状腺ホルモンは多すぎても少なすぎても良くありません。
通常、甲状腺ホルモンが分泌する量は、脳からの指令によって一定に保たれています。すなわち、甲状腺ホルモンの量が少なくなると、脳から甲状腺ホルモンの分泌を促す「甲状腺刺激ホルモン」が分泌されて、甲状腺ホルモンが作られる量を増やします。逆に、甲状腺ホルモンの量が多くなった場合は、甲状腺刺激ホルモンが分泌される量が抑えられ、甲状腺ホルモンの分泌量が減少します。

甲状腺ホルモンは全身に影響するホルモンであるため、甲状腺ホルモンの量が多くなったり少なくなったりすると、全身に様々な症状が現れます。

甲状腺ホルモンの量が多い時に出る症状	甲状腺ホルモンの量が少ない時に出る症状
疲れやすい、だるい	疲れやすい、だるい
汗が異常に多い	汗が少ない
暑がりになる	寒がりになる
脈拍数が多くなる、動悸がする	脈拍数が少なくなる
手足の震え	むくみ(顔、全身)
首(甲状腺)が腫れる	首(甲状腺)が腫れる
食欲が旺盛になる	体重が増える
イライラする	気力がない
かゆみがある	皮膚が乾燥する
口が渇く	声がかれる
眠れない	眠たい
微熱が続く	物忘れしやすい
息切れがする	動作が鈍い
髪の毛が抜ける	髪の毛が抜ける
排便の回数が増える	便秘
眼球が出てくる	筋力が低下する

※高齢者では、衰弱、眠気、混乱、無口、うつ状態になることもある¹⁾



甲状腺ホルモンが過剰に分泌される病気 (甲状腺機能亢進症)

甲状腺ホルモンの量が増加しすぎると、新陳代謝が活発になりすぎて、体のいろいろな機能が過剰に働いてしまいます。いわば、じっとしているのに運動しているような状態で、静かにしていても心臓がドキドキしたり(動悸)、手が震えたり、汗をかいたり、熱が上がったり、少し運動しただけでも息切れがしたり、疲れやすくなったりします。

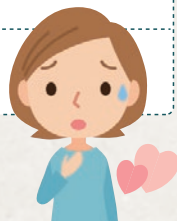
甲状腺ホルモンが過剰に分泌される病気として代表的なものは、**バセドウ病**です。

バセドウ病は、血液の中に自分の甲状腺を攻撃する異常な物質ができ、その刺激によって甲状腺ホルモンが過剰に分泌することで起こると考えられています。20~40代の女性に多い病気です³⁾。

バセドウ病の代表的な症状⁴⁾

甲状腺腫	甲状腺の腫れ。 首が大きくなったように見える。
眼球突出	目が出る。瞼が腫れる。 目の周りの脂肪や筋肉に炎症が起こるため ⁵⁾ 。
動悸(ドキドキする)、 頻脈(脈が早い)など	甲状腺ホルモンの過剰によって起こる。

甲状腺ホルモンが過剰に作られないようにする治療が行われます^{2, 4)}。



治療法	説明
薬物療法	甲状腺ホルモンが作られるのを抑える薬を使います。
放射性ヨウ素内用療法	甲状腺に集まる性質を持つ放射性ヨードを服用して、甲状腺の細胞を壊し、甲状腺ホルモンが作られるのを抑えます。
手術療法	甲状腺を切除し、作られる甲状腺ホルモンの量を減らします。

薬は、甲状腺ホルモンの合成を抑える薬である「メルカゾール」や「プロパジール/チウラジール」などが使われます。一般的に、薬を飲み始めてから症状が落ち着くまで、数週間~数ヵ月かかります。また、数年間は服薬が必要になります。

その他、動悸や頻脈、手の震えを抑える目的で「β 遮断薬」と呼ばれる薬(インデラル、テノーミンなど)が処方されることもあります。

甲状腺ホルモンの量が不足する病気 (甲状腺機能低下症)

甲状腺ホルモンの量が足りなくなると、全身の働きが低下するため、体がだるい、動作が鈍くなる、気力が出ない、脈が遅くなる、便秘、むくみなどの症状が出ます。

甲状腺機能低下症を招く原因はさまざまですが、代表的なのは**慢性甲状腺炎(橋本病)**によるものです。ほとんどのの人に見られる症状は「甲状腺の腫れ」で、その他の症状は出ない場合もあります。

慢性甲状腺炎の原因は、自分の甲状腺を攻撃する異常な物質ができるのはバセドウ病と同じですが、慢性甲状腺炎の場合は、それによって甲状腺に炎症が起きて、細胞が徐々に壊れ、機能が低下するためと考えられています。

治療は、体の中で足りなくなっている甲状腺ホルモンを薬によって補うことで行われます。治療薬には、甲状腺ホルモンの一種の「チラーゼンS」が使われます。

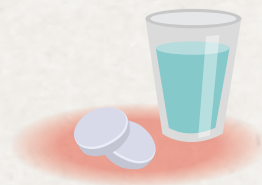
一般的に、薬の効果が出るまで、数週間~数ヵ月かかります。治療は長くなりますが、薬を服用していれば健康な人と同じように生活できます。



日常生活での注意

バセドウ病でも慢性甲状腺炎でも、食事からのヨウ素の摂取については、通常の食事をしていない限り、それほど気にしなくてもよいでしょう。詳しくは主治医などにご相談ください。

いずれの病気でも、薬をきちんと飲むことで、病気を長期間コントロールしていく必要があります。薬による効果や副作用の有無を確認するため、医師から指示された通り定期的に受診することが大切です。



【参考文献】

- 1) MSD : メルクマニュアル医学百科家庭版 オンライン版「甲状腺の病気」
<http://merckmanuals.jp>
- 2) 富士フィルムIRファーマ: 甲状腺のアイソトープ療法 harecoco.net
<http://harecoco.net/>
- 3) 今日の治療指針(医学書院)
- 4) あすか製薬: メルカゾールを安全にお使いいただくために
<http://www.asaka-pharma.co.jp/mercazol/index.html>
- 5) 日本眼科学会: 甲状腺眼症
http://www.nichigan.or.jp/public/disease/hoka_koujyo.jsp